

第1学年 道徳学習指導案

日時 平成17年10月28日(金)1校時
対象 1組(男16名 女15名 計31名)
指導者 千葉 久美子
支援者 高橋 ゆかり

- 1 主題名 みんながつかうもの〔公德心・規律の尊重4-(1)〕
- 2 資料名 きいろいベンチ (出典:文溪堂「1ねんせいのどうとく」)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第1学年及び第2学年の指導内容4-(1)は、「みんなが使う物を大切にし、約束やきまりを守る。」となっている。この内容は、自分たちで決めた約束や社会のきまりについて理解し、それらを守ることや公衆の一人として、みんなのことを考えて行動することができる子どもを育てようとするものである。

公共物や公共の施設を大切に使い、人に迷惑をかけないようにすることは、社会生活を営む上で、最も基本的な生活態度ということができる。「きまりを守り人に迷惑をかけない」ことを出発点にして、人のためになることを目標に、社会の一員としての自覚を深めていきたい。

この時期の児童は、みんなで使う物を大切にすることや、公共施設などでルールを守って行動しなければならないことは知識としては知っている。しかし、つい自分の欲求のおもむくままに、周りのことを配慮せずにやりたいと思うことをやってしまうことが多く見受けられる。悪気はないがつい遊びなどに夢中になってしまい、公共物を大切にしなかったり、後始末をきちんとしなかったりして、みんなに迷惑をかける実態がある。自分のわがままな考え方や行動が、他者にどんな迷惑をかけてしまうかを考えさせたい。

(2) 児童について

学級の児童は、全体的に明るく素直で、学校生活にもだいが慣れ、友達とかかわりながら元気に生活できるようになってきている。先生の話やきちゃんと聞こうという気持ちや、言われたことやきまりについて守ろうという気持ちはもっている。

しかし、生活の慣れからか、自分の持ち物を落としてもそのままにしたり、後始末をきちんとしなかったりすることがみられるようになってきている。みんなの物や公共の場ということは分かっているが、それがみんなが使う物だから大切にしようという意識にはなっていない。自分の興味関心が先に立ち、周囲の様子や人の迷惑を考えずに、身勝手な行動を取ってしまうこともある。

そこで、自分のことだけ考えるのではなく、他者のことを意識し、みんなが気持ちよく暮らせるように、みんなの物を大切に使うことや約束やきまりを守ることの大切さに気付かせていきたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公のたかしとてつおが公園で他の利用者のことを考えずに遊びに夢中になり、迷惑をかけてしまう様子が描かれている。降り続いた雨がやみ晴天となったある日、たかしとてつおは近くの公園に紙飛行機を飛ばしに行く。もっとよく飛ばしたいと考えた二人は、泥だらけの靴のまま、黄色いベンチの上に乗って夢中になって紙飛行機を飛ばす。しばらくして、小さな女の子がそこに座ってスカートを汚してしまう。ブランコで遊んでいた二人は、女の子とおばあさんのやりとりを見聞きして、顔を見合わせるという内容である。

自分本位の行動が、他の人に迷惑をかけてしまったことに気付く、後悔する主人公の姿は子どもたちの生活場面に類似しており、主人公の行動や気持ちに共感させながら、公共の物を大切に使うことやきまりを守ることの大切さに気付かせるのに適した資料である。

(4) 指導にあたって

事前に、春の遠足で公園に行き、公園を使うときのきまりについて学んだ。その後、学区内のいろいろな公園を探索し、遊具で遊ぶ経験をしている。また、生活科の動物公園探索の学習では、公共の施設を利用するときのマナーやきまりを確認し、グループ別に自分たちで公園内を見学する体験をしている。

気づく段階では、生活科の学習で行った地域の公園や動物公園の写真を使いながら公園の様子を想起させたい。

見つめる段階では、主人公のたかしとてつおが公園で夢中になって紙飛行機を飛ばして遊んでいる気持ちに十分共感できるようにしたい。

つかむ段階では、役割演技を取り入れ、主人公により深く共感させ、自分たちが楽しんで

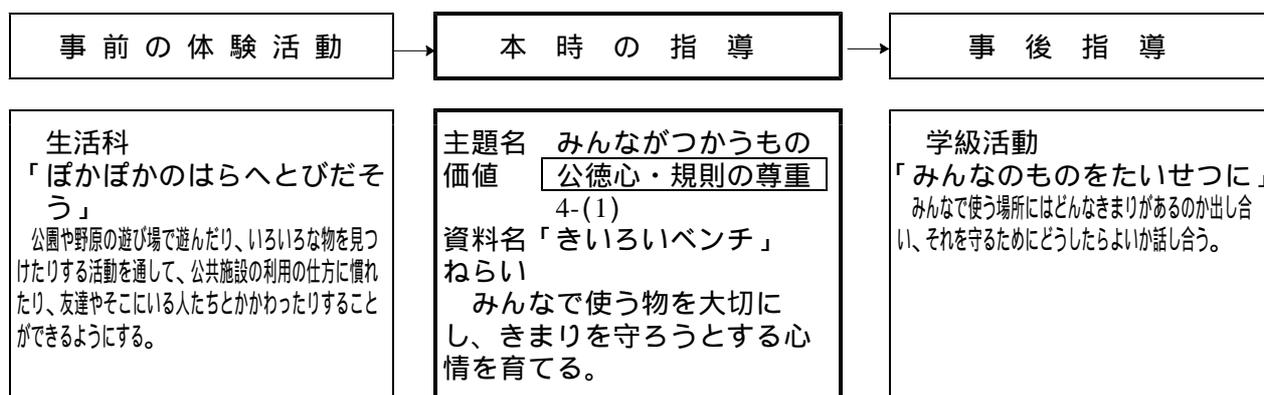
いることが他人の迷惑になっていることもあるということに気付かせると共に、本時の価値を把握させたい。

広げる段階では、今までの生活を振り返って、自分のくらしの中にあるみんなで使う物や場所をどのように使っていたかを発表させ、正しい使い方について考えさせる。

まとめる段階では、地域で公園の掃除をされている方からのメッセージを聞くことで、本時の価値を深化させ、今後の実践への意欲に結びつけていきたい。

事後の活動として、日常生活を送っていく上で、自分の生活を振り返る機会を設けることで、児童の意識を高めることができると考える。

4 本時指導の位置付け



5 本時の指導

(1) ねらい

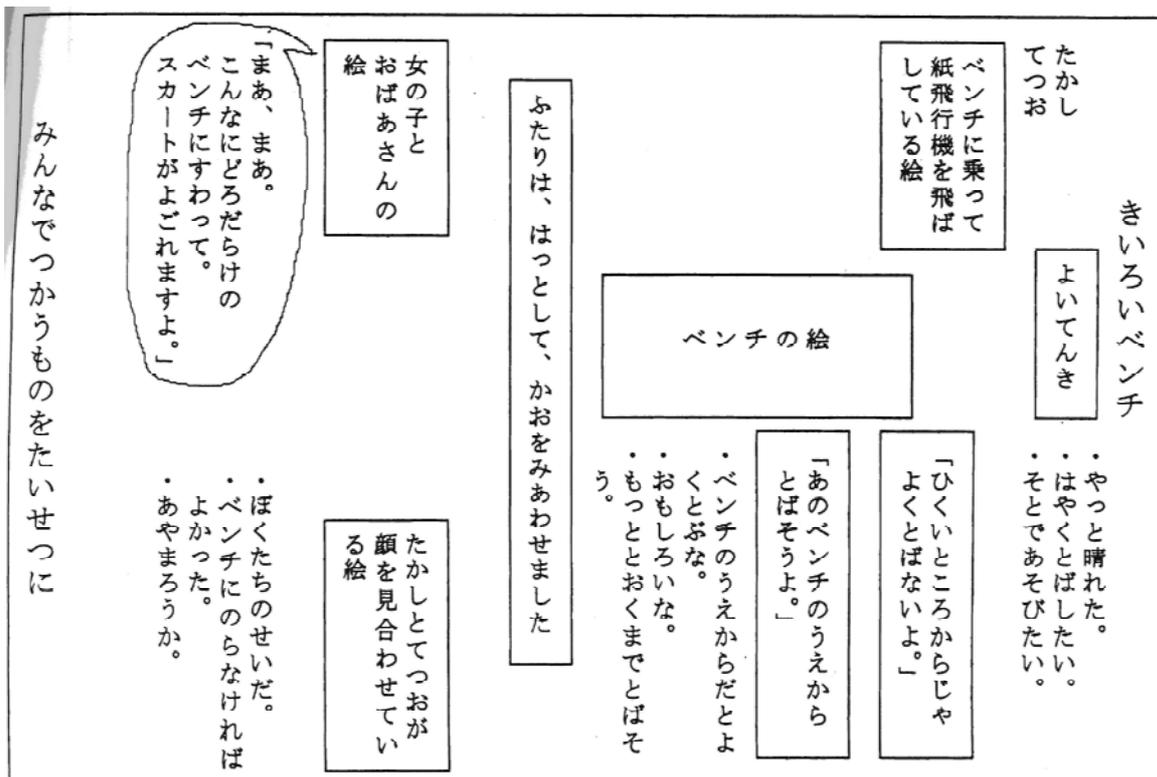
みんなで使う物を大切にし、きまりを守ろうとする心情を育てる。

(2) 展開の概要

段階	学習活動と主な発問	予想される発言や心の動き	指導・援助の留意点
<p>気づく</p> <p style="text-align: center;">10分</p>	<p>1 生活科の学習で公園を探検したことを想起する。 地域の公園や動物公園には、みんなが使うためのどんな物がありましたか。</p> <p>2 資料を読んで感想を出し合い、学習のねらいをもつ。 このお話を聞いてどんなことが心に残りましたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>はっとしてかおをみあわせた二人のきもちをかんがえよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ブランコ ・滑り台 ・トイレ ・ベンチ ・水飲み場 ・紙飛行機を遠くまで飛ばせたい気持ちが分かる。 ・泥の付いた靴でベンチを汚し、他の人に迷惑をかけたのが悪い。 	<p>事前に行った生活科での体験を思い出させ、写真を提示しながら公園にはみんなが使う物がたくさんあることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵や紙板書を使いながらあらすじを確認かめ、感想を出させるようにする。 ・二人の気持ちを考え、考えていくことを確認する。
<p>見つめる</p>	<p>3 たかしとてつおの気持ちを中心に話し合う。 何日も降り続いた雨が上がり、たかしとてつおはどんな気持ちで公園に遊びに行ったのでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">ベンチに上がって紙飛行機を飛ば</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やっと晴れた。 ・早く紙飛行機を飛ばそう。 ・思い切り遊ぼう。 ・楽しみだな。 ・やっぱり高い所だと 	<ul style="list-style-type: none"> ・雨が続いて外で遊べなかったので、思い切り遊びたいという気持ちで出かけた二人に共感する。 ・ベンチが汚れること

つ か む 25分	<p>しているとき、たかしとてつおはどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>たかしとてつおは、どんな気持ちで顔を見合わせたのでしょうか。</p>	<p>よく飛ぶな。 ・もっと遠くへ飛ばそう。 ・楽しいな。</p> <p>・僕たちがベンチに上がったからだ。 ・ベンチに上がらなければよかった。 ・あの女の子に悪いことをしたな。 ・謝ってこようかな。</p>	<p>にも気づかず、夢中になって紙飛行機を飛ばしている気持ちをとらえさる。</p> <p>役割演技を取り入れることにより、二人の気持ちをより切実に考えさせるとともに、周りのことを考えない行為のために他の人に迷惑をかけてしまったことに付け、価値に迫る。</p>
広 げ る 5分	<p>4 みんなが使う物や場所の使い方について話し合う。 今までみんなが使う物や場所をどのように使っていましたか。</p>	<p>・学級文庫の本を返すとき整頓した。 ・使い終わったほうきをきちんとかけている。 ・砂場に穴を開けたままにして帰った。</p>	<p>・今までの生活を振り返って、自分のくらしの中にあるみんなが使う物や場所をどのように使っていたかを発表させ、正しい使い方について考えさせる。</p>
ま と め る 5分	<p>5 ボランティアで地域の公園の清掃をしている方からのメッセージを聞く。</p>	<p>・みんなで使う物や場所を大切にしよう。 ・迷惑をかけないようにしよう。</p>	<p>みんなで使う場所や物を大切にしようという内容のメッセージを聞くことにより、実践化への意欲を高める。</p>

6 板書計画



7 資料分析

資料名 きいろいベンチ

出典 (文溪堂「1ねんせいのどうとく」)

ねらい

みんなで使う物を大切にし、きまりを守ろうとする心情を育てる。

場面	<p>たかしとてつおが、公園に紙飛行機を飛ばしに行く場面。</p>	<p>ベンチに上がって、夢中で紙飛行機を飛ばす場面。</p>	<p>たかしとてつおが、女の子とおばあさんを見て顔を見合わせる場面。</p>
外的状況と主人公の心の動き	<p>雨がやんでとてもよい天気になる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やっと晴れた。 ・ 早く紙飛行機を飛ばしたい。 ・ いっぱい遊ぼう。 <p>楽しみ</p> <p>期待</p>	<p>ベンチの上から紙飛行機を飛ばすと、遠くまで飛んでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチの上からだよく飛ぶなあ。 ・ おもしろいな。 ・ もっと遠くまで飛ばせるように何度もやろう。 <p>夢中</p> <p>満足</p> <p>喜び</p>	<p>おばあさんが女の子のスカートの泥を落としている。</p> <p>公德心・規則の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 僕たちがベンチの上に乗って遊んだからだ。 ・ ベンチに乗らなければよかったな。 ・ 女の子に悪いことをしたな。 ・ 謝ってこようかな。 <p>後悔</p> <p>反省</p>
児童の意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ ずっと雨でつまらなかっただろう。 ・ 晴れてよかった。 ・ 久しぶりの外だから気持ちがいいな。 ・ 紙飛行機飛ばしは楽しそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 僕も高いところに乗って紙飛行機を飛ばしてみたい。 ・ 楽しそうだ。 ・ 私ならベンチの上ではないところから飛ばすのにな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スカートが汚れてしまい、女の子がかわいそうだ。 ・ ベンチに乗らなければ、こんなことにならなかったのに。 ・ 二人は謝った方がいい。
発問	<p>雨が上がり、たかしとてつおはどんな気持ちで公園に遊びに行ったのでしょうか。</p>	<p>ベンチに上がって紙飛行機を飛ばしているとき、たかしとてつおはどんな気持ちだったでしょう。</p>	<p>たかしとてつおは、どんな気持ちで顔を見合わせたのでしょうか。</p>